

エッセイ

桜について

又、桜の季節が来ます。

桜は国の花として古くから日本人の心の中に住みついています。文人の句や書物にも数多く出て来ます。しかし無桜の花が桜として認知され栽培される様になったのは江戸時代、江戸と京都だと思われます。輸出も盛んに行われたそうです。

種類は600系統、約300種以上にわたります。主な花は東日本では大島桜、サト桜から生まれ全国に広く分布している様です。栽培が盛んに行われたと言うことは日本人の心にはぴったりだったのでしょね。

大島桜の原木は牧野富太郎により神奈川県真鶴町で発見され、やがてサト桜と呼ばれる八重咲きの花が作られたと考えられている様です。栽培で沢山の品種に別れ優雅な名前がつけられたのです。江戸後期に急発展、江戸ヒガンと大島桜との種間雑種が生まれ、江戸染井村から吉野桜の名前で広まったと言われています。多分、染井村(現 東京都豊島区)の吉野さんと言う人が作り出した品種なのでしょう。外国種の桜も日本に入ってきていますが、やはり桜は日本種に限ります。沢山の名前のついた桜の花、色も形も地域の気候に合った桜になりました。



昨年、千葉県の三郷市でみた薄緑色の桜はうこん桜か御衣黄(ぎょいこう)だと思われ、珍しかったので写真を撮って来ました。花卉は5枚から10枚程、散る前には花卉の中心が薄紅く染まるのです


が黄桜とか浅黄桜と呼ばれている所もある様です。

日本列島縦断する桜並木や春いち早く目を楽しませてくれる川津桜、お酒いただきながら…！もうじき季節になります。

文章・写真

ステンドグラス アントレ 金森 千昭

ホームページ更新のお知らせ

本会主催の展覧会をはじめ、会員作家の活動や会員の募集に関する事まで。 [jsgaa](http://jsgaa.org/) で [検索](#)  各会員のホームページへもラクラクリンク。

<http://jsgaa.org/>

編集後記

私たちの作品を効果的に演出してくれる照明は大切なアイテムの一つです。白熱電球、蛍光灯、LED電球と選択肢があります。初期はワット数も小さく限られた器具にしか使えなかったLED電球でしたが、東日本大震災以降、電力不足、電気料金高騰の影響もありその普及は加速しています。一般電球型はもちろん、24時間点灯するコンビニエンスストアなどはベースライトも蛍光管から少しでも消費電力の少ないLEDに変わってきました。

確か2009年の第1回の展覧会では会場内の照明が暗くパネルの展示のためのライトにみんな随分苦労したと思います。明るさは確保できてもワット数の大きいハロゲンランプの投光器は使用を制限されたりしたものでした。しかし2年後の東京展からは小型のLED投光器の使用も見られるようになりました。更に昨年ぐらいからミニクリプトン型で460ルーメンの明るさ(白熱球40W型で440ルーメン)しかも配光が290°とランプにもとっても幸せなLED電球が出ました。

これからも益々便利で楽しく作家の思いを叶えてくれる照明が増えることを願います。

本協会への入会、お問い合わせは事務局及び各会員まで
お願いします。

発行日 2014年2月10日
発行者 日本ステンドグラス作家協会
(事務局) 〒108-0074 東京都港区高輪 4-2-7-201
林 晶子 (A工房)

jsgaa-a@nifty.com

編集者 〒841-0004 佐賀県鳥栖市神辺町 1589-3
櫻井 由美 (ステンドグラススタジオ Y's COMET) Tel.0942-84-5546

日本ステンドグラス作家協会

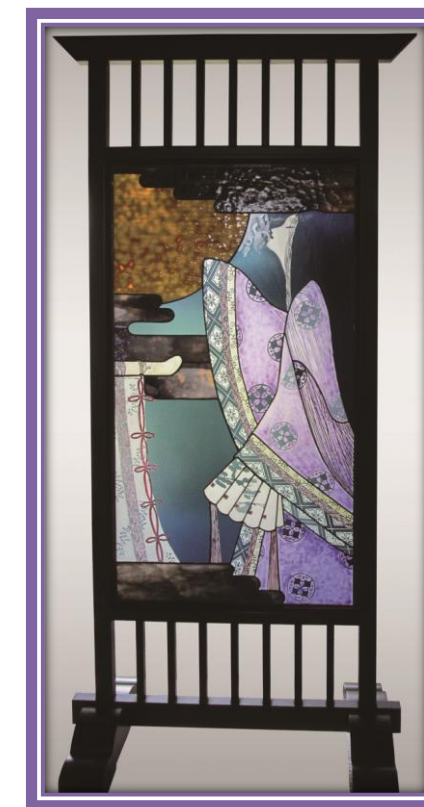
Japan Stained Glass
Artist's Association

日本ステンドグラス作家協会

会報誌

JSGaA

第11号



2014年2月 Vol.11

活動報告

臨時総会

2013年12月9日(月) 東京 がんこ銀座1丁目店に於いて臨時総会を開催しました。

今後の展覧会の計画が主な議題として挙げられた。

実行委員会の開催

2013年11月25日(月) 名古屋展反省会

2014年1月20日(月) 第4回展のための実行委員会

レポート

昨年10月に開催された名古屋展では748名ものお客様にご来場をいただきました。この展覧会を見る目的で足を運んでくださった方が実に多かったのは喜ばしいことです。協賛いただきました各事業所、後援していただいた各自治体、団体の皆様にも心から感謝致します。

また、今回初めて公募による作品の展示も行われました。会員以外の作家さんたちとの交流もあり、それぞれにいろんな刺激をもらった展覧会だったのではないのでしょうか。

会期中、会場で接客に努めてくださった会員の中から感想を頂戴しましたのでご紹介します。



作品展を終えて

私達の作品展も早や3回目を迎え、京都、東京、名古屋と会場も色々と試行錯誤しながら今回は名古屋の国際

芸術センターにて行う事が出来ました。

ちょうど「あいちトリエンナーレ」のパートナーシップ事業に参加することが出来ました。「あいちトリエンナーレ」とは、3年に1度の国際芸術祭。名古屋を中心に開催されました。今年は2回目、{揺れる大地—われわれはどこに立っているのか、場所、記憶、そして復活}をテーマに揚げ東日本大震災後のアートを意識しつつ、世界各地で起きている社会の変動と共振しながら国内外の先端的な現代美術、ダンス、演劇などのパフォーマンスアーツ、オペラを紹介、現代美術と舞台公演が同時に行われるのは、他の芸術祭にはない「あいちトリエンナーレ」の特徴でした。

じっくり鑑賞する時間がなくて残念でしたが、そんな芸術祭の一環として参加出来た事は光栄に思いました。私達の作品展にも、たくさんの人達にEMOTIONを感じてもらえれば幸いです。

文章

Stained Party 後藤 栄

名古屋展での上映映像にあたって

私は2012年の11月にステンドグラス作家協会に入会し、今回の名古屋展で初めて展示させていただくことになりました。このような素晴らしい展示会に参加できたことを本当に嬉しく思うのと同時に、これからは展覧会等を通じてステンドグラス作家協会の発展に貢献していきたいと思いました。

私は今回の展覧会では会場内に流れていた映像の担当でした。ステンドグラス作家協会がこれまで活動してきた「京都」「東京」「横浜」での展覧会の様子をスライドショー形式で映像にし、会場で上映しました。制作時のコンセプトは「会場の雰囲気を感じられる映像」です。ただのスライドショーではなくお客様が過去の展覧会に行ったことのない方でもステンドグラス作家協会の活動を理解していただけるようなものを考えていきました。写真の移動や拡大など映像に動きをつけることにより、視聴者が会場を眺めているような演出をしました。

今回の映像制作にあたって一番難しかったのはBGMです。様々なクラシックを聞きながら、映像に合うかどうか試してみました。クラシックオーケストラ等の壮大な曲では映像のステンドグラス作品よりも音楽の方に意

識が向いてしまい、映像の雰囲気には合いませんでした。最終的には癒し系のピアノソングにすることによって映像やステンドグラス作品の雰囲気や品を損なわずに曲を流すことができました。

会場内に映像を上映するというのは初めての試みだったそうなのですが、とても多くの方から好評をいただきました。次回の展覧会においても映像を制作できる機会をいただければ、より一層お客様の満足いただけるようなものを作り、心地よい気持ちで会場内の作品を見てもらえるようにしたいと思っています。

文章

渡邊 雄一

“トリエンナーレ”随想

昨年参加したあいちトリエンナーレの作品展が無事に終わりました。

ところで、トリエンナーレの意味を一寸調べてみましたので読んでみて下さい。Triennale(伊)は「都市の祝祭」をテーマにして3年に1回、世界で開催される美術展のことで、日本国内では2001年に横浜で行われ名古屋は2回目の祭典でした。東日本の震災のため今回の催しは、あいちトリエンナーレ・ゆれる大地と言うテーマと結びつけられました。イタリアが発祥の地で34の国、地域から122組が参加したと言われています。

これとは別に日本人に馴染み深いbiennale(伊)があります。これは2年に1回催される展覧会、ベネチアビエンナーレが最古の歴史を持っています。始まりは1895年で、数多くの芸術部門で国同士が競ういわば「芸術の五輪」と言われ、日本からも多くの芸術家が参加しています。私の恩師の佐藤忠良はベネチアビエンナーレの審査員をされていて一寸誇らしかったです、ベネチアの他にもオーストラリアのシドニー、フランスのリヨン、中国の光州市が壮大な規模の美術展を開催して知られています。ドイツのカッセルでのドクメンタ(独)は5年に1度開催されるということです。

将来、我がステンドグラス界から世界へと羽ばたく人が沢山出ることを願っています。

文章

ステンドグラス アントレ 金森 千昭